

平成17年2月25日



日本スーパーマーケット協会

## 平成17年1月 マンスリー レポート

集計企業数 60 社

## 売上高・前年同月比

	全 店			既 存 店	
	売上高	構成比(前月)	前年同月比(前月)	売上高	前年同月比(前月)
総 額	35,414,358 万円	100.0%	102.3%(101.5%)	33,678,138 万円	98.9%( 98.2%)
食 料 品	27,495,494 万円	77.6%(78.4%)	102.2%(102.3%)	26,156,550 万円	99.0%( 99.0%)
農 産	3,943,300 万円	11.1%(10.6%)	101.6%(105.2%)	3,735,850 万円	98.0%(101.3%)
水 産	3,436,119 万円	9.7%( 9.9%)	97.6%( 98.1%)	3,271,127 万円	94.5%( 94.5%)
畜 産	3,261,286 万円	9.2%( 9.1%)	105.2%(101.1%)	3,100,552 万円	102.2%( 97.8%)
惣 菜	2,659,349 万円	7.5%( 7.3%)	103.2%(105.2%)	2,517,894 万円	99.3%(101.3%)
日配食品	6,261,056 万円	17.7%(17.7%)	102.2%(102.8%)	5,960,920 万円	99.2%( 99.6%)
加工食品	7,934,384 万円	22.4%(23.7%)	102.9%(102.3%)	7,570,207 万円	99.9%( 99.4%)
生活関連	3,205,768 万円	9.1%( 9.2%)	100.2%( 97.6%)	3,056,243 万円	97.8%( 95.6%)
衣 料 品	2,415,083 万円	6.8%( 5.9%)	101.4%( 92.8%)	2,321,168 万円	98.8%( 90.7%)
そ の 他	2,298,013 万円	6.5%( 6.5%)	107.4%(105.6%)	2,144,177 万円	100.3%( 99.2%)

## 数 値

全店総売上高	35,414,358.0 万円	店 舗 数	3,345 店舗
総売場面積	5,751,376.8 m <sup>2</sup>	総従業員数	169,274 人

店舗平均月商	10,587.3 万円	平均客単価	1,981.2 円
月間m <sup>2</sup> 売上(前月)	6.2 万円( 7.0 万円)	平均店舗面積	1719.4 m <sup>2</sup>
月間坪売上(前月)	20.4 万円(23.0 万円)	パート比率(前月)	75.5%( 74.6%)

注) 総従業員数...パート・アルバイト数は、8時間換算しています

## 全体概況

- ・ 元旦営業が定着したこともあり、年始の売上は各社とも軒並み好調であった。刺身、牛肉など日持ちのしない商品は顕著に年末から年始に売上がシフトしている
- ・ 前半は冷え込んだ日が多く、冬物商材中心に好調に推移したが、後半の気温の上昇とともに失速し、全体では昨年を若干下回る売上となった
- ・ 月を通じて寒暖の差が非常に大きく、店舗が柔軟に対応できたかどうかの売上の大きなポイントとなっている

## 商品動向

### 農産

- ・ 野菜は昨年からの相場の高騰が落ち着き、点数、単価ともに例年並みとなった
- ・ 果物は、みかん、伊予柑などの柑橘類が値ごろ感もあり好調であった

### 水産

- ・ 元旦営業の増加、定着により、刺身は全般的に好調であった。また気温の低下により、たらなどの鍋物商材も好調に推移した
- ・ 全体的な商品動向は依然として低調であり、特に生魚の売上が落ちている

### 畜産

- ・ 牛肉は相場高に伴う単価の上昇と、気温の低下による鍋需要から軒並み好調となった。反面豚肉は昨年のBSEによる好調の反動から低調となった

### 惣菜

- ・ 和惣菜、弁当は昨年に引き続き好調を維持している。特に米飯はSKUも増え、非常に好調な売れ行きとなった
- ・ 寿司は正月、成人の日などの際日には好調に動くも、平日伸び悩み、全体的には平年並みの売上となった

## 日配・加工食品

- ・ 日配食品は、卵が相場高により好調も利益確保は難しい状況となっている。各社とも特殊卵の拡販により、対応している
- ・ 特に後半から、花粉症対策によるものか、機能性ヨーグルトの売上が伸びている
- ・ 加工食品は、依然として米の相場安が続いており、点数は昨年並みも売上は低調となった
- ・ 気温がやっと下がり、鍋つゆなどの調味料が好調な売上となった

## その他

～年始の売上動向について

- ・ 刺身、寿司、牛肉などの生鮮品を中心に昨年を大きく上回る売上となった。10～20%昨比を上回る店舗も多くあった
- ・ 元旦から定番商品はよく動いた
- ・ 年末商戦の売上が低下した分、年始の売上が上昇しているかたちとなり、徐々に買いだめをしなくなっていることが伺える
- ・ 年末、年始トータルの売上は昨年並みだが、年始営業にかかる経費は増加しているので、利益面ではマイナスになる、との声も聞かれる

～昨今の水産部門の低迷について

- ・ 以前は、単価の下落が低迷の大きな原因であったが、最近は点数も低下傾向にあり、漁獲高の低下も追い討ちをかけ、さらに売上が悪化している
- ・ 丸物など、調理の必要のある順に売上は低迷している
- ・ 原因としては調理方法を知らない方が増えたという声も多いが、それ以上に、急激に変化しているお客様の嗜好にマッチしていないことをあげる声が多い
- ・ 対応策としては、簡便商材の強化、料理法の提案などとともに、買いやすい値段にするために、仕入れの見直しも検討されている